

## 目次

|        |    |
|--------|----|
| 2024年度 | 1  |
| 2023年度 | 2  |
| 2022年度 | 3  |
| 2021年度 | 4  |
| 2020年度 | 5  |
| 2019年度 | 6  |
| 2018年度 | 7  |
| 2017年度 | 8  |
| 2016年度 | 9  |
| 2015年度 | 10 |
| 2014年度 | 11 |
| 2013年度 | 12 |
| 2012年度 | 13 |
| 2011年度 | 14 |
| 2010年度 | 16 |
| 2009年度 | 17 |

## 2024年度

- 〈脆い人〉が経験する社会的不利益の検討  
—障害の社会モデルへの批判を手がかりに—
- 流行語「親ガチャ」から考える若者の生きづらさ
- マイケル・サンデルのメリトクラシー批判
- 外部の教育機関が学校に与える影響  
—教育ベンチャー企業での実践から考える—
- 大学入学共通テストへの移行の背景と問題点
- 花柳幻舟による『打倒家元制度』活動  
—文化継承における抵抗という観点から—
- スウェーデンにおける民主主義とシティズンシップ教育
- 「コト」的世界観の教育論  
—「エージェンシャル・リアリズム」と「有機体の哲学」に注目して—
- 大西忠治における「善人的教育」批判
- 運動部活動の地域移行は生徒に何をもたらすのか  
—子どもたちの新たなサードプレイス—

- 教育現場におけるパワハラの実態要因と、指導環境の改善に関する研究
- 学校事故と教師の注意義務
  - ―損害賠償請求事件の裁判例を踏まえて―
- 小林宗作の「総合リズム教育」とその実践
  - ―トモエ学園に焦点を当てて―
- 地域コミュニティ文脈における「居場所」の現象学的事例研究
  - ―北海道富良野市での経験を基に―
- 高校野球における指導と暴力
  - ―1980年代における徳島県立池田高校監督・蔦文也に着目して―
- フランシス・ベーコン知識伝達論の教育思想史的意義
- 都立光明養護学校における介助についての歴史的研究
- アーサー・フランクの病いの語りの三類型の射程
  - ―不登校を事例として―

## 2023年度

- メリトクラシー批判の誕生と発展
  - ―マイケル・ヤングとマイケル・サンデルに焦点を当てて―
- バーチャル空間における学習環境デザイン原理の再検討
  - ―ボルツとラニアーの比較を通じて―
- 公教育と私教育の関係性の再検討
  - ―学習塾に着目して―
- 18世紀における女性の自然科学に関する適正観の分析
  - ―ルソーと『エミール』を手掛かりに―
- ナチ体制下における強制的同一化の過程
  - ―当時の手記や回想を手がかりに―
- 1990年代後半における日本的経営の変化と財界の求める人材像
  - ―日経連の提言に焦点をあてて―
- 『科学技術・イノベーション白書』にみる「ポストク問題」
  - ―歴史的考察とアメリカの比較分析―
- 「つながり」を生む場所としての運動部活動の理念の検討
  - ―スポーツ漫画『ハイキュー!!』の分析から―

- 「戸惑い」のなかで互いに当事者化されること  
—路上生活者との関係性の生成について考える—
- 劇場における観客の「主体化」に向けて  
—「感性的なもののパルタージュ」と共同性との関係に着目して—
- インターネット言論空間における公論形成の可能性
- 「記憶の解凍」の平和教育実践  
—<AIとカラー化>した戦前の日常写真で伝える、戦争体験者の「想い」—
- 機関誌「かけはし」に見る全国LD親の会の活動  
—発達障害者支援法の成立まで—
- 東日本大震災における「当事者」性の検討  
—くどうれいん『氷柱の声』を対象として—
- 福地幸造の解放教育実践  
—湊川高校における「落第生教室」を中心に—

## 2022年度

- 河合隼雄の子ども思想と教育思想
- 東京大学運動会ラグビー部における勝因・敗因分析  
—1990年代から2010年代に焦点を当てて—
- 学生野球における勝利至上主義
- イギリスの小学校における教科外教育
- 佐保女学院（1933～1966）の設立と昇格  
—学校経営の観点から見た女子教育の変化—
- 校則の在り方の考察  
—自由の森学園の教育実践を手掛かりにして—
- メンタルトレーニングにおいて望ましい自己評価のあり方の検討  
—プロアスリートの分析をもとに—
- 高度経済成長期の浅草山谷における不就学児童に対する教育実践  
—貧困家庭の子どもたちに対して教育は何を達成しようとしたのか—
- 少年院での矯正教育における教官と少年との関わりが持つ意義
- 『無知な教師』における普遍的教育の実践可能性  
—ランシエールとジャコトの思想に注目して—

- OECDのラーニング・コンパス2030における「生徒エージェンシー」の検討  
—主体の成立条件に関するバトラーとビースタの理論の比較を通して—
- 有用性に従属しない「遊び」と人間形成空間  
—矢野智司「生成としての教育」の批判的検討—
- 高校受験における志望校決定  
—『進路指導研究』誌に焦点を当てて—
- メンタルトレーニングが令和4年度東京大学運動会漕艇部に与えた効果に関する事例研究  
—心理的競技能力の観点から—
- カントとアーレントにおける悪の問題
- 映像作品におけるトランスジェンダー描写のあり方の検討

## 2021年度

- ビオスとゾーエーに関する、アガンベンと木村の概念の違いについて
- 卓越主義としてのハンス・レンクにおける達成哲学  
—日本の身体教育に関する検討への一視角—
- ダンスにおける〈顔〉の意味  
—身体教育の基礎的検討—
- 過疎地域における高校生の地元志向  
—島根県立吉賀高等学校を事例として—
- 都立高校における男女共学化の過程
- 大学進学校における受験指導の現在  
—都立私立高校教員の語りに焦点を当てて—
- ポストコロニアル的解放教育  
—ガヤトリ・C・スピヴァクの思想に着目して—
- キリスト教による女子教育と良妻賢母観  
—明治・大正時代の読売新聞に着目して—
- 現代日本における第三の居場所の構築過程  
—児童館・青少年施設に焦点を当てて—
- 鷲田清一の思想の教育学的検討
- 良心と責任の主体形成  
—当事者研究とジュディス・バトラーの思想をもとに—

- 少年院内での修復的実践がエージェンシーの構築・発揮に及ぼす影響  
—教育課程と環境調整に着目して—
- 運動部活動は大学教育のなかにどのように位置づけられるか
- アリストテレスにおけるフィリアとエポイケーア  
—寛容に関する「適正なこと」のアポリア—
- マンガ『ドラえもん』を通じた学校教育  
—現場での活用例と更なる展望について考える—
- 高度成長期の中学「就職組」生徒に対する進路指導  
—愛知県新城市立東郷中学校の実践に着目して—
- イエナ・プランの「学校共同体」における個性重視  
—オランダにおけるその受容と変化—
- 「地域の学校」への就学運動  
—障害児を普通学校へ・全国連絡会の活動から—
- ポリティカル・コレクトネスは表現をどこまで制限しうるか  
—実写リメイク版『アラジン』にみられる改編—
- 佐伯胖におけるコンピューター教育論

## 2020年度

- 戸田唯巳における都市の生活綴方
- 社会における学びの可能性に関する考察  
—イヴァン・イリイチの思想を手がかりに—
- コメニウスの社会像と学校像の通時的分析
- 現代における「セクシャルハラスメント」の特質  
—東京大学における認定状況と対応を中心として—
- ジョルジョ・アガンベンにおける「思考」概念の検討  
—教育における「考える力」を問い直すために—
- 子どもの「虫殺し」に見られる未分化の聖性
- ポスト反学校文化としてのヘヴィメタル  
—教育における遂行性と遂行中断性に着目して—
- 戦後日本におけるピアノ教育の展開  
—ヤマハ音楽教室と新中間層—

- ダンスにおける〈顔〉の意味  
—身体教育の基礎的検討—
- せんだいメディアテークにおける「わすれン！録音小屋」の理論と実践  
—市民によるメディア表現に基づく情報発信と災害記憶伝承の課題—
- 自立生活における障害者と介助者の関係構築  
—分かり合えなさに焦点を当てたインタビューを通して—
- ディズニープリンセスが体現する理想の女性像  
—居場所の変遷を手がかりに—
- 1970年代から1980年代前半における日本での「脱学校論」言説の展開  
—山本哲士によるイヴァン・イリイチ解釈に焦点を当てて—
- 広岡亮蔵における学習論の展開  
—ブルーナーの影響に焦点を当てて—
- 学校制服の変遷と若者のアイデンティティ  
—制服ファッションの地味化に着目して—
- 親子のあいだにおける「純粋な関係性」の在り方について  
—ギデンズの「親密性の変容」論をもとに—
- 否定性の人間形成  
—大江健三郎における「後期の仕事(レイト・ワーク)」を手がかりに—
- 「均質で空虚な時間」に満たされた空間としての学校教育の相対化の可能性について  
—ベンヤミンにおける時間の概念を手がかりに—
- 「体育会系」組織からの脱却  
—帝京大学ラグビー部 岩出雅之監督の指導哲学—
- 竹内敏晴の演劇教育における自己変容の可能性  
—バトラーのアイデンティティ論を通して—
- ネオブラグマティズムの芸術教育論による「デザインシンキング」解釈
- ガルトゥング平和学における平和教育の「構造的暴力性」

## 2019年度

- 倉橋惣三の家庭教育論
- 日本社会における「少女」像の展開  
—良妻賢母規範と女性の社会進出に着目して—

- ライトノベルに見る「共感」の構造と教育学的意義
- 内在と受容性
  - アンリ哲学における自己論の可能性 —
- 恋愛依存における自他の境界の曖昧性
  - Twitterでの語りを手がかりに —
- 「人生100年時代」における生涯学習のパラダイム転換
- 男性同性愛者同士の出会いの意義と課題
  - 当事者インタビューに基づいて —
- 樋口勘次郎の読み方教授法の研究
- なぜ家庭での悩みを抱え込む子どもがいるのか
  - 質的研究からせまる —
- ビデオゲームにおける身体性とループ
  - 東浩紀の「ゲーム的リアリズム」に着目して —
- 1960年の学生運動
  - 若者の動機の変容に焦点を当てて —
- 高坂正顕のカント解釈の戦前・戦後比較
  - 『カント解釈の問題』と『続・カント解釈の問題』の比較を通して —
- 道徳の教科化に伴う教科内容の変化と各社検定教科書の比較
- 応用された問題解決学習
  - 永田時雄における「西陣織」の実践から企業内教育への転換 —
- 教育における権威の存立構造について
  - 権威喪失の思想史的過程を視野に入れて —
- ケア論に基づく大学生の不登校支援

## 2018年度

- NHK「中學生日記」が描く「いじめ」の世界
- 情緒と教育
  - 小林秀雄の教育観についての試論 —
- 自由の森学園における理想と現実のジレンマ
- 「ゼロ・トレランス」は果たして日本の教育に入り込んだのか
  - 学習規律の普及と変化に着目して —

- 上田薫の道徳教育論について  
—ジレンマに着目して—
- 共同体における不和の感取  
—サバルタンの公現と意志の解放—
- 地域住民による子育て支援の可能性とウェルビーイング  
—ファミリー・サポート・センターにおける「相互援助活動」に着目して—
- 岩手県における「学テ反対闘争」
- 承認論から教育における関係性を捉え直す  
—重松清『エイジ』を手掛かりにして—
- 「死」を教えるということ  
—金森俊朗による「死の授業」に焦点をあてて—
- 教育技術の法則化運動の再検討
- 現代における「新しい能力」に関する考察
- ももクロのライブで生まれる「笑顔」に関する分析
- バンコクにおける海外子弟教育  
—戦後の日本人学校再興に焦点を当てて—
- ジュディス・バトラーにおけるコナトゥス概念の検討
- 牛山榮世における「総合学習」の追究
- 自分という物語を語ることの現代的な価値についての考察
- バウマン社会理論における「対話」の批判的検討
- 「主体化」を促すキャリア教育  
—余白のもつ力に注目して—
- 近代報徳運動と修身教育  
—教科書に描かれた2人の二宮金次郎—

## 2017年度

- 学校教育でいかなる個性を、いかに育むことができるのか
- 他者との距離とつながり  
—ジンメル「形式社会学」を手がかりに—
- ネル・ノディングズの『道徳的な人々を教育する』の検討
- 1970-80年代におけるアイドル文化の登場と変容

- ヘルバルトとヘルバルト・ルネッサンスについての検討
- 大学のユニバーサル化と選抜について  
—メリトクラシーと推薦入試制度に注目して—
- 赤井米吉の教育思想  
—十五年戦争期における「転向」の史的研究—
- 統合教育における「共生」と「発達」  
—宮崎隆太郎の「総体的」子ども観に焦点をあてて—
- 下田次郎の婦人論と女子教育論  
—1920年代前半に着目して—
- 「子どもに優しい社会」を創出するために
- ひきこもりの社会的包摂の可能性  
—アクティベーションとワークフェアの観点から—
- 音楽科における歌唱共通教材の変遷について
- ネットいじめの現状とこれからの予防法・対処法
- 首都圏と地方の教育格差の調査研究  
—義務教育期間に焦点をあてて—
- オーギュスト・コントにおける生理学と社会学の接合
- 神奈川県のカリキュラム教育
- 人間の声を経験すること  
—ジョルジョ・アガンベンの言語哲学を手がかりに—
- 日本における「バックラッシュ」とは何だったのか  
—2000年代前半のジェンダーフリー・性教育批判を再考する—
- バウマンのリキッド・サーベイランス論  
—情報化社会を生きる若者達—
- 津田道夫の障害児教育論

## 2016年度

- 政治教育を再考する  
—ガート・ビースタを手がかりに—
- 個人心理学に基づく教育実践のあり方

- 言葉・ふるまいから失われた感情を探る  
— 鷲田清一の臨床哲学を手がかりに—
- 発達保障思想の再検討  
— 糸賀一雄の思想形成に着目して—
- 戦後の幼児教育思想  
— 幼保一元化の議論に着目して—
- 労作教育の陶冶理念  
— 小原国芳の教育論と実践に着目して—
- 学校教育のICT化の展望  
— 教材・教科書のデジタル化を焦点に—
- 現代社会における「成熟」とは何か  
— 宇野常寛の議論を手がかりに—
- 障害児の普通学校就学運動における「当事者」の位置  
— 1978-83年の「金井闘争」に着目して—
- 道徳教育の今後のあり方  
— 地域・家庭の役割に着目して—
- 学校における排除と子どもの居場所づくり  
— 地域ボランティアの主導性に着目して—
- 「山びこ学校」はなぜ時代に埋没したか  
— 「山びこ学校」の現代的意義を探る—
- 家庭教育と学校教育の関係について  
— フレーベルの人間教育をもとに考える—
- 共通第一次学力試験以降の大学入試制度の変遷に関する考察
- 一新自由主義との関連性・共通性に着目して—
- 「道徳の時間」特設に至る政治的背景
- 現代における男女別学校の特殊性拡大とその対応
- 高大接続に関する政策展開と受験産業

## 2015年度

- 今後の日本における宗教教育の在り方  
— イスラームの扱い方を中心に—

- オルテガ思想における「教育」の位置づけ
  - ―『大学の使命』の「教養」「文化」概念に着目して―
- ハイエクの自由論における自由の価値の所在について
- フリースクールの制度化におけるジレンマ
  - ―「多様な教育機会確保法案」をめぐる議論に着目して―
- 学校選択制と教育機会均等
  - ―品川区の事例に焦点を当てて―
- 教育の「再政治化」における教師の役割
  - ―伝習館高校事件以降の展開に注目して―
- 高校闘争における「自治」の変容
- 戦後における民間教育運動の転換
  - ―教育法則化運動の初期に焦点をあてて―
- スクールカースト文学に見る教室のポリティックス
- ノディングズの思想における教師・生徒間関係
- なぜゆとり教育は批判されたのか
- 「インクルージョン」概念の検討
  - ―「包含と排除」パラダイムを越えて―
- コミュニティ・スクールにおける地域づくり
  - ―東京都八王子市立松木小学校・長野県飯山市立常磐小学校を事例として―
- 教育における集団の問題
  - ―ル・ボンの『群衆心理』をてがかりとして―
- 家庭教育に対して持つべき心構えとは何か
  - ―ペスタロッチーの思想を手がかりに―
- 1970年代後半の養護学校義務化阻止運動に関する史的研究
  - ―「青い芝の会」神奈川県連合会に着目して―
- 環境管理型権力としてのキャリア教育

## 2014年度

- 教育者・石川啄木を再考する
  - ―「一元二面論」をもとに―
- 林竹二の教育思想と学習権保障

- 戦後における公立夜間中学の社会的意義の変遷  
—公共性の転換に着目して—
- 教育におけるナナメの関係
- ビル・レディングズの大学論  
—エクセレンスの大学から不同意の共同体へ—
- 子どもの権利に関する歴史的研究  
—関係的権利論による子どもの権利の再構成を視野に置いて—
- 受験生心理に関する歴史的研究  
—昭和40年代前後の受験雑誌投稿欄の分析を通して—
- 逸脱から読み解く社会  
—被抑圧者と抑圧者の構図—
- デジタルゲームの教育への活用
- 夏目漱石『こころ』から見えてくる「人生の師」について
- 地方教育改革と教育ガバナンスの再編  
—黒崎勲の言説を手がかりとして—
- 読書感想文のポリティクス  
—青少年読書感想文全国コンクールの歴史的検証—
- 「受験」言説の構造に関する歴史的研究
- 学級集団づくりから見る生活共同体としての学級とその問題点に関する考察
- 学校教育における個性尊重のあり方  
—ゆとり教育に対する批判を踏まえて—
- 受動的な民衆娯楽と道德教育  
—権田保之助を通して現代の娯楽を考える—
- 日本の学校教育におけるICT化に関する一考察  
—「21世紀型能力」の育成の観点から—
- 落ちこぼれ救済塾の成立と展開  
—八杉晴実の実践に関する歴史的検討—
- 法教育の歴史的変遷の考察とその再定義  
—シティズンシップ教育の実践例として—
- ポスト近代の能力観に対する批判をめぐる諸問題

- 今日の教育的状況における子どもと大人の関係について  
—ランゲフェルトの教育思想を手がかりに—
- 南原繁の「政治的教養」 概念

## 2013年度

- 日本でフラを習得すること  
—民俗芸能継承論に着目して—
- 障害の社会モデルの射程と限界
- 特別支援教育に関する比較教育学研究  
—日英でのフィールドワークを中心にして—
- グローバル人材育成と英語教育  
—「英語教育大論争」を手掛かりとして—
- 「いのちの教育」が持ちうる今日的意義
- 中学校における合気道実践から見た武道必修化  
—徳島県東みよし町立三好中学校を取材して—
- 東京大学における男女共学の実現  
—女子学生はどのような存在であったのか—
- 反基礎付け主義からの公共性と教育  
—リチャード・ローティの思想を軸にして—
- 教育現場におけるメディア受容  
—テレビ学校放送の変容を中心に—
- 生徒・教師関係の変容といじめの形態
- オランダのイエナプラン教育に関する考察  
—日本におけるイエナプラン受容の可能性—
- 現代日本の学歴主義  
—2つの課題—
- 無着成恭における『続・山びこ学校』の実践
- 懲戒と体罰の境界  
—水戸五中事件を手がかりとして—
- 福地幸造の教育実践とその思想

- ポスト成長型社会の日本における市民性教育の在り方  
—平田オリザの演劇論を中心として—
- ポストモダンにおける自律性
- 家計簿と農村婦人  
—『家の光』における記帳運動を手がかりに—

## 2012年度

- 明治・大正の女性歌人の活躍からみる女性の自己表現と自立  
—歌人・九条武子と与謝野晶子の教育思想の比較を通じて—
- ポスト・モダニズムの潮流における「逃走」についての考察  
—ジョン・アップダイクの小説にみる表象とジル・リポヴェツキーによる新しい個人主義論  
考を手がかりとして—
- 「不登校」の言説史研究
- 「真正の評価」は学校教育にどこまで影響を与えられるか  
—現代の学力に注目して—
- 遠山茂樹における歴史教育論の展開
- 自己分析に見る現代日本の若者のアイデンティティ
- 戦争における正義  
—対テロ戦争を巡る思想を紐解く—
- 宮原誠一における地域教育計画論
- 社会問題としての学歴主義
- “決断主義”社会を生きる  
—教育と社会の間における決断について—
- 「生命力」あふれる社会像の形成  
—シュルレアリスムの可能性—
- 日本人の幸福感
- 学校におけるケアリング  
—ネル・ノディングズのケアリング論を中心に—
- 大学受験環境の変化に関する研究  
—1960年代以降の『螢雪時代』が果たした役割—

- 教育の公共性の再検討  
—ランシエールの政治哲学に着目して—
- 「生」への志向性からみた正常と異常
- 倉橋惣三の保育思想  
—戦時下の論考に注目して—

## 2011年度

- 道徳教育における「思いやり」の批判的検討  
—他者との共生を目指して—
- ファンタジー文学の教育学的意義  
—『はてしない物語』の読解を通して—
- 再生と生成の場としての庭  
—『夏の庭—The Friends—』を拠り所に—
- ローカル・シティズンシップへの教育  
—まちづくりのための市民性醸成に関する考察—
- 職業教育としての高等教育の役割に関する研究  
—変化する日本の労働市場への対応に着目して—
- 教育実習の歴史的研究  
—今日の教育実習改革を展望して—
- 知的障害者を対象とした政治教育の在り方
- 自己と経験の不一致  
—セクシュアルマイノリティの自己に注目して—
- 現代の子育て支援  
—「次世代育成支援対策推進法」を考える—
- 国語科における古典教育の成立
- 教師の専門職性の再検討  
—教師と市民との相互理解とその先をめざして—
- 「ゆとり教育」論再考  
—陰山英男実践を手掛かりに—
- 歴史に「出会う」歴史教育を求めて

- 学ぶとは何か  
—学習意識の変遷と若者格差に着目して—
- 「体罰への態度の変化」から何が見えるか
- 「新しい能力」概念とどう向き合うか  
—何を目指し、どう培うか—
- 「新しい公共」の一環としてのNPM  
—日本の地域活性化の手法として—
- 日本における「生と死の教育」  
—道徳教育から公民科教育へ—
- 日本における脱学校論の再考  
—1970～80年代の脱学校論争を中心に—
- 百科事典の教育思想  
—コメニウス汎知教育思想を中心に—
- 地域社会の教育力と緑づくり
- 青少年を逸脱行動に駆り立てるもの  
—間接的な情報に現実性はあるか—
- 家族・教師関係の再構築  
—公共圏の形成という観点から—
- 「かけがえのなさ」を見つめ直す  
—「かけがえのなさ」の重層性をめぐって—
- 教育の現場に教師の個人的思想を持ち込むことはどこまで許されるか  
—公立学校における日の丸・君が代問題を手がかりに—
- 生活科をめぐる論争史  
—理科教育の視点から—

## 2010年度

- 「学び」概念の批判的検討  
—佐藤学の「学びの共同体」論を中心に—
- 「育児ストレス」と向き合う  
—母性概念の批判的読み解きを中心として—

- 「発達保障論」と「共生共育論」の対立を越えて  
—子どもの学習をどう保障するか—
- ノディングズのケア概念について  
—ケアの無条件性という観点から—
- 日本のコミュニティ・スクールの課題  
—法制化プロセスから考える—
- ルーマンの合理性論  
—「システム合理性」概念の含意—
- ナチス・ドイツの障害者安楽死政策が現代教育に示唆するもの  
—障害者の処遇および優生思想をめぐって—
- 旭丘中学事件再考  
—公教育における政治教育の存立可能性—
- 「つなぐ」中等教育国語科授業  
—デューイ教育哲学から出発して—

## 2009年度

- 校庭芝生化の議論における「教育」の位置  
—東京都の事例を中心に—
- 児童文学の教育的役割を活かす媒介のかたち  
—小学校教育における子ども観・文学観に着目して—
- 学校で死別に伴う悲しみを教えること  
—「死への準備教育」再考—
- 日本におけるキャリア教育  
—海外との比較に着目して—
- ミシェル・フーコーの倫理  
—ポスト・モダンをどう生きるか—
- 近代化・国民化の手段としての唱歌教育  
—伊澤修二の「唱歌遊戯」に着目して—
- 企業内教育における教育観の変遷  
—学校教育との連関を中心として—

- 中学校歴史教科書の国際対話  
―日韓に着目して―
- New Public Management (NPM)と教育改革  
―評価制度に着目して―
- メディアを学ぶとはどういうことか  
―メディア・リテラシーの現状と展望―
- シュタイナー学校における音楽教育  
―そこで目指される音楽的体験―
- いらんくなって生きんならんもんでえらい  
―これからの介護と教育を考える―